

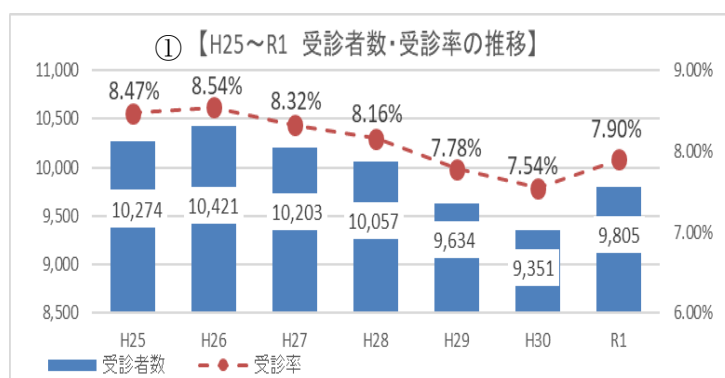
松江市 結核・肺がん個別検診導入の取り組みについて

1. 結核・肺がん個別検診取り組みの経過

年度	内 容	実績
平成 25年度	肺がん検診事業検討会を設置 肺がん検診の受診者数が減少傾向にあることから、個別検診導入を検討。	—
27年度	個別検診試行実施：5診療所で撮影・一次読影、松江医療センターで二次読影実施。 データ送信にまめネットを使用した。二次読影に係る事務負担が大きく単年で終了。	32件
29年度	個別検診試行実施：松江市立病院、松江生協病院・撮影・二重読影の自院実施 (実施期間：11～3月)	108件
30年度	個別検診(総合病院)本格実施開始：松江市立病院、松江生協病院(実施期間：6～3月)	601件
	個別検診(診療所)での実施に向けた試行(実施期間：2～3月 プレテスト) ①読影機関・松江赤十字病院、松江市立病院で読影の協力を得る。 ②撮影・一次読影・平成27年度試行実施に参加した4診療所の協力を得る。	25件
令和 元年度	個別検診(総合病院)・・・2病院継続。実施機関拡大を働きかけるも増なし。 (実施期間：6～3月)	741件
	個別検診(診療所)試行実施：4診療所(実施期間：6月15日～3月) 読影機関・H30の2病院+松江医療センター医師1名の協力を得る。 検診機関と読影機関の画像データ移送・市職員で月2回対応。 実施機関・読影機関の意見交換会及び研修会開催。	528件
2年度	個別検診(総合病院)・・・2病院継続(実施期間：8～3月までの予定) ※8～10月実施分	※335件
	個別検診(診療所)試行実施・・・3診療所に減(期間：8～3月までの予定) 読影機関・松江赤十字病院、松江市立病院の2病院体制 ※8～10月実施分	※473件

2. 個別検診導入の成果

- ①受診率・受診者数とも年々減少傾向にあったが、R1年度は増加に転じた。
(受診者数・受診率は全年齢対象)



- ②
- 総合病院受診者は壮年期割合が高く、働き盛り世代の受診につながった。
 - 診療所受診者は70歳以上、特に後期高齢者が半数近くを占めた。また新規受診者(3年間、市の肺がん検診受診歴なし)が7割と、検診未受診者の掘り起こしにつながった。

②令和元年度 結核・肺がん検診：年代別(構成比率)・受診種別 受診者数

	40歳代	50歳代	60歳代	70-74歳	75歳以上	合計
集団検診	563	713	2,153	1,931	3,176	8,536
個別(総合病院)	153	134	229	139	86	741
個別(診療所)	18	22	111	126	251	528
計	734	869	2,493	2,196	3,513	9,805
年代構成比率	7.5%	8.9%	25.4%	22.4%	35.8%	100.0%

3. 個別検診の課題

【総合病院】

- ・ 専門医が複数在籍して自院で撮影・二重読影できる総合病院等で検診受託機関の拡大を図りたいが、2医療機関以上に拡大できない。

【診療所試行実施】

- ①**画像の精度管理**…検診実施機関が複数になるため画像が一定ではない。
- ②**読影体制の構築**…読影する専門医の確保、画像データの移送（セキュリティも含めて）など。
- ・ 松江市医師会及び読影等協力医療機関と検討を重ねてきたが、市内の呼吸器内科等専門医は総合病院等に集中しており、病院を含めた協力体制が広がらない以上、事業の拡大は困難である。
- ・ 画像データ移送について「まめネット」の活用も検討したが、経費（市、診療所とも必要）がネックとなり進展していない。
- ・ ①に対して、検診機関、読影機関合同で研修会・意見交換会等を継続開催する予定だったが、今年度は新型コロナウイルス感染症対応のため未実施。
- ・ 市医師会より、早期発見のため「肺CT検診」の導入について提案あり（平成30年度）。

4. 拡大に向けた今後の方向性

【読影体制の構築に向けて】

- ・ 広域的市町村（医師会も含めて）による取り組み ～参考：鳥取県内市町村と鳥取県医師会の読影体制
- ・ 島根県環境保健公社を中心とした取り組み
- ・ 画像データ移送…県内で取り組むならば「まめネット」の活用を検討 ★導入・継続経費が高額
- ・ 読影専門事業所等の活用による読影業務の委託 ★精度管理は？ ★画像データ移送の問題

【画像の精度管理について】

- ・ 診療放射線技師会など専門機関と連携し、研修会の継続開催。
- ・ 検診機関と読影機関の意見交換会の継続開催。
- ・ 撮影機器の確認